

考古生化学による
ミルク研究の最先端と
北東アジア地域の
位置づけ

古代ユーラシア における 乳製品の加工 と利用



日時

2018年12月8日(土) 13:30~17:00

場所

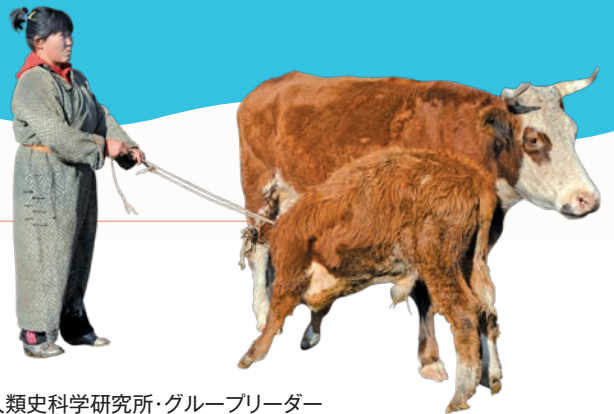
国立民族学博物館第4セミナー室(2階)

一般公開(参加費無料)

[事前申込] 不要
[定員] 50名

同時通訳(日英)

私たち人類は、いつ、どこで、乳製品の加工と利用を始めたのでしょうか。
 西アジアで生まれたとされる乳利用の文化は、どのように広がり、
 中国や日本に導入されたのでしょうか。
 このシンポジウムでは、起源地としてのトルコ、
 伝播地としてのヨーロッパとモンゴルの事例を主としてとりあげつつ、
 北東アジア地域へのつながりについて考えます。
 近年めまぐるしく発展した考古生化学の方法を通じて明らかになった、
 古代の乳製品の加工と利用についての最新の知見を紹介します。



プログラム

- 13:30-13:35 **挨拶** 小長谷有紀 国立民族学博物館・教授
 13:35-13:45 **趣旨説明** 池谷 和信 国立民族学博物館・教授
- 13:45-14:25 **講演1**  ジェシカ・ヘンディ マックスプランク人類史科学研究所・グループリーダー
 「明らかになった古代アナトリアにおける乳加工の証拠」
- 14:25-15:05 **講演2**  ペニー・ビッケル ヨーク大学考古学科・専任講師
 「ヨーロッパの最初の農民はミルクをのんだか？
 新しい考古科学の方法が乳加工の起源の研究に与えたインパクト」
- 15:20-16:00 **講演3**  シェヴァン・ウィルキン マックスプランク人類史科学研究所・研究員
 「ショットガンプロテオミクスで探る古代モンゴルの乳製品の加工」
- 16:00-16:20 **コメント1** 辛嶋 博善 国立民族学博物館・特任助教
 「民族学の視点から」
- コメント2** 庄田 慎矢 奈良文化財研究所・主任研究員
 「考古学の視点から」
- 16:20-17:00 **総合討論**



主催／奈良文化財研究所「日本古代の乳製品加工に関する考古学的証拠の探求」プロジェクト(日本学術振興会 科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽))(代表:庄田慎矢)、
 人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「北東アジア地域研究」国立民族学博物館拠点(代表:池谷和信)
 協賛／一般社団法人 Jミルク

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

●開館時間…………… 10:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般420円/高校・大学生250円/中学生以下無料
 ※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」、「公園東口駅」徒歩約15分
- バス…………… 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
 ※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通ください。

※高校・大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。※小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんなくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。※自然文化園(有料区域)をご利用される場合は、同園入園料が必要です。

〒565-8511
 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
 Tel: 06-6876-2151(代) Fax: 06-6875-0401
<http://www.minpaku.ac.jp/>

